

令和 4 年度 学校評価シート

学校名： 和歌山県立箕島高等学校

校長名： 森 文 哉

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

校訓「凜烈の意気」を基盤として、基本的な生活習慣と確かな学力を身につけ、地域・社会に貢献できる個性豊かな生徒を育成し、地域から愛され信頼される学校。

- ・「生きる力」と、自己の特性や能力をさらに伸ばすことができる力を身につける。
- ・けじめある生活態度を養い、何事にも意欲的にチャレンジする力を身につける。
- ・地域社会の中核として、夢や希望を持って未来を切り拓く力を身につける。

学校評価の公表方法

誰でも閲覧できるよう、本校ホームページにおいて広く公表する。

現状・進捗度	A	十分に達成している。	(80%以上)
	B	概ね達成している。	(60%以上)
	C	あまり十分でない。	(40%以上)
	D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組				評価（3月1日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	基本的な生活習慣の確立とコンプライアンス意識の定着を図る。	B	定期的な街頭指導、感染症対策及び支援委員会の活性化	学校内外で自他ともに大切にする行動をとれているか	C	支援が必要な生徒が年々増加しており、対応も複雑化。	支援委員会を機能的に組織し、適時・適確に生徒指導を行う。 ネット関係は、教員の研修と専門家による生徒への啓発等を継続していく。
			挨拶と整理整頓（ゴミをしない・ゴミを拾う）の徹底	生徒が進んで挨拶できているか、校内の環境は整えられているか	A	校内美化・挨拶は良好で、来校者の評価も高い。	
			SNS等の適切な使用方法に係る啓発活動の充実	SNS等情報モラルは向上しているか、ネットトラブル対策は適切か	C	情報モラルが向上したとは言えず、トラブルもある。	
2	キャリア教育を推進し、生徒各人の進路実現を図る。	C	授業規律の確立と基礎・基本の学力の定着	授業規律の改善や効果的な学習指導が行われているか	B	クラス内での学力差があり、更なる指導改善が必要。	基礎学力定着のため、個別指導や更なる指導の工夫・改善、研究授業等により指導力向上を目指す。 ICTを効果的・効率的に活用している教員が全職員に伝達研修等を行う。
			地元企業との連携による高い就職内定率の維持	キャリア教育の推進が図られているか	A	概ね希望の進路を実現。複数応募も定着。	
			ICT環境の充実と効果的な運用	ICT機器が授業や、その他様々な場面で活用されているか	C	より有効な活用が必要。	
3	部活動及び自主活動の振興を図る。	B	大会やコンクール等における成果の充実	競技力等の向上とともに活動の深化があるか	A	運動部の競技力向上は顕著である。	今年度同様、適切な指導を行っている。 更に、顧問をしている部だけでなく、箕高生を全ての教員で育てるという気持ちで指導していく。
			効果的・効率的な練習方法等の実践	科学的理論等に基づいた練習や休息ができているか	A	教員は日々研鑽し、より良い指導につなげている。	
			学校行事や委員会等での生徒主体のスムーズな運営の充実	行事等は生徒会中心で企画運営され、学校が一体となって取り組んでいるか	A	学校行事等で生徒会の活躍顕著である。	
4	地域コミュニティの中核を担い、地域社会とともに生徒を育ていく。	C	生徒や教職員の地域活動への積極参加（小中学校との交流等）	地域の諸団体との交流が盛んに行われているか	B	交流を希望しているが、コロナ禍が負の影響。	令和5年度は、校外活動の制限が大きく緩和されるとの想定により、今まで以上に生徒が地域で活躍する機会の創出を推進していく。
			有田市役所（地方創生）と連携して様々なプロジェクトの運営協力及び貢献	有田市と連携した取組がなされているか	A	様々な教科や分掌で有田市との連携が広がっている。	
			学校運営協議会委員と教職員・生徒との率直な意見交換	学校運営協議会の協議が有効に活用・機能しているか	C	生徒との意見交換等はできたが、教諭とは未実施。	

学校関係者評価

- 有田市社協主催「異世代活動報告会」で、地域課題研究班の皆さんとご一緒し、今回も素晴らしい学習成果を報告いただいた。「地域課題研究の箕高」というイメージも定着しつつあるので、ぜひ、この取組を継続させたい。
- 箕高生に限らず、高校生の自転車マナーが気になる。命を守るためにも引き続きご指導をお願いする。
- 有和中学校開校に向けて有田市内中学校協働による学習プロジェクトが進んでいるので、箕高も参画し、有田市における学びの連動性、一貫性を高めていってほしいと思う。
- 令和5年は、学校生活や地域との関わりをコロナ禍以前のようにできることを期待するとともに、コロナ禍での経験を生かして、チャレンジして欲しい。
- 「地球市民プロジェクト」は、3カ年計画で非常に良い取組であるが、指導体制を整えることも重要である。また、様々な場所に出かけ積極的に活動することは、箕高をPRする絶好の機会である。その発表会や1月のまちづくりシンポジウムでの生徒の姿に感動した。今後有田市や地元企業等と一層の連携を図り、様々なチャレンジを期待する。
- 先生方の熱心な指導により生徒会活動や運動部の競技力向上が見られるのは素晴らしい。箕高の大きな強みとして、今後も伸ばしたい。先日の有田市スポーツ賞で箕高の部活がたくさん表彰されて誇らしかった。
- 学校生活アンケートで悩みを相談できる人がいないと答えた生徒が一定数いる。不登校を含め、閉じこもってしまうようなことのないよう、笑顔あふれる取組や活動を期待し、また、考えていければと思う。
なお、全体的に否定的な回答をしている生徒の割合が低く、生徒たちは充実した学校生活を送れていると感じる。今後は、「ふつう」や否定的な回答の生徒に更なる丁寧な取組をお願いする。
- 挨拶と整理整頓が良好、「いじめ」の実態が見られないのは、学校が落ち着いている証拠だと思う。今後も徹底した取組を期待する。一方、ネットモラルの向上は、喫緊の最重要課題であり、継続した指導が必要である。保護者に対して、「持たせる責任」を認識させたい。
- 運転免許取得による交通安全指導や、その他問題を抱えている生徒への指導等、きめ細やかな対応をお願いしたい。
- 学校生活において、生徒のモチベーションが気になる。学力は成績がすべてではないと感じており、社会に出ると学力だけでは解決できない理不尽なことが多い。そういう意味でも「生きる力」をのばす取組を強化することが大切である。また指導は、生徒自身の中で理解できる、腑に落ちるようにしないと、生徒と大人の間で、偏見等が生まれる可能性がある。それがそのまま進学や就職をしたのち、気づかないまま過ごすことは、本人だけでなく学校の評価にも関わる。地球市民プロジェクトのように第3者の大人と交流する機会は今後ますます必要である。
- 有田市では、ENEOSの撤退、中学校の統合、人口減少といった課題問題が増える一方である。これに限らず、地域課題解決には何がなか、これからの社会を形成していく生徒たちの世代で考えていく機会を設けることが大切である。市役所行政、市内の事業者など様々な分野との交流を今後も継続していきたいし、有田市としても協力できることは適宜対応する。